金属材料工業炉の脱炭素化プロ着手

NEDO GI基金

新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）は9日、総額2兆7500億円のグリーンイノベーション（GI）基金事業のうち、金属材料向け工業炉の脱炭素化プロジェクトに着手したと発表した。2031年度までに304・1億円の予算を投じ、アンモニア燃焼工業炉、水素燃焼工業炉などの開発を目指す。

GI基金事業のなかの「製造分野の熱プロセスの脱炭素化」プロジェクトの実施予定先として、脱炭素産業熱システム技術研究組合を採択した。同コンソーシアムは、中外炉工業、三建産業、ロザイ工業、IHI機械システム、関東冶金工業、富士電子工業、東京ガス、キャタラーで構成する。

アンモニア燃焼工業炉、水素燃焼工業炉、水素・アンモニア燃焼と電気加熱によるハイブリッド炉、シミュレーションやデジタルツインなどの共通基盤技術の4テーマとも同コンソーシアムが担う。